

異業種交流を楽しむ

私が山形北ロータリークラブに入会したのは、1981（昭和56）年9月10日、まだ残暑が厳しい秋口のことでした。当時の例会場は、山形市役所向かいの産業会館ビルの4階、手を伸ばせば届く天井が低い一室でした。

入会時私は若干39才。職業は当時隆盛を誇っていた山形丸魚の若手経営者の一人でした。

経営者と申しましても、朝は3時出勤、市場でセリ人としてマグロ、ニシン、サバ等々の魚を扱う、元気だけが取り柄の若者でした。

朝が早いものですから、夜は8時前就寝の生活。その頃山形市内で繁盛していたソシュウ、赤坂等のキャバレー界限とは全く無縁でした。

このような職場環境でしたから、青年会議所のメンバーにもなれず、社外の友も出来にくく、つまらない仕事一筋の青年でした。

そんな時に私に山形北ロータリークラブへの入会を勧めて下さったのが、大学時代の先輩伊豆田さんでした。

「ロータリーはお昼12時30分からの例会で、昼の暇なお前にあっているし、多くの仲間ができるぞ」が誘い文句でした。そして、その一言が私の人生を変えてくださりました。

入会してからは親睦活動委員会で酒巻さんよりご指導を頂き、周りの状況が一変致しました。

木曜日の例会には皆出席し、ゴルフ大会、家族ピクニック、ボウリング大会、クリスマス家族会等々、ロータリーの輪の中に入り、家族ぐるみのお付き合いや、異業種交流が本当に楽しく、諸先輩方のお話、経験談などロータリーの仲間から学ぶことが多く、大袈裟ですが生きるための仲間を得たような感覚に浸りました。

39才で入会してから今年で44年目になりますが、今は山形北ロータリークラブの多くの若い経営者諸君と交わることで、様々な職種の情報も得ることができますし、ゴルフなどを共にすることで、気分も体力も若返ることができます。ロータリーが私の人生を豊かに支えてくれています。

このクラブに入会したからこそ、多くの仲間が出来、充実した人生を送ることが出来ました。

山形北ロータリークラブには誠に感謝致しております。

ロータリーの創立者ポールハリスが1905年に3人の仲間と共に会合を開いてから120年。私は、これからも各種職域人との交流を通じて、多くの奉仕の機会を持ち、ロータリーライフを楽しんでいきたいと思っております。